

**水田を利用した露地抑制栽培に適するカボチャ品種「恋するマロン」**

水田を利用した 8 月下旬定植の露地抑制栽培において、「恋するマロン」は、慣行品種「くりゆたか」に比べて定植から収穫までの期間が短い。また、着果率は高く安定し増収する。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 堤泰之)

**研究のねらい**

天草地域では、近年、早期水稲跡水田を利用してカボチャの露地抑制栽培が行われている。慣行品種「くりゆたか」は、8 月下旬に定植し 11 月中～下旬に収穫するが、交配が遅れると降霜や果実肥大不足の危険性が高く、着果および収量も不安定である。そこで、8 月下旬に定植し、11 月に安定して収穫が可能な露地抑制栽培に適するカボチャ品種を選定する。

**研究の成果**

1. 「恋するマロン」の在ほ日数は、「くりゆたか」に対して短く、早期水稲との組み合わせに適する(表 1)。
2. 果高、果径は、「くりゆたか」よりやや小さいが、果肉は厚い。果径比は「くりゆたか」と同程度で、「くりゆたか」と同等の形状である(表 2)。
3. 着果率は、「くりゆたか」に対して高く安定し、10a 当たりの収量は多くなる(表 3)。
4. 商品性の高い 2 kg 以上の果実割合は、「くりゆたか」と同程度である(図 1)。

**普及上の留意点**

1. 本試験は、天草地域の早期水稲跡水田で行った。
2. 基肥は、窒素成分で 10kg/10a 施用した。追肥は、窒素成分で 10kg/10a を開花前と着果後の 2 回に分けて着果節付近に施用した。
3. 仕立ては、1 本仕立て 1 果どりとし、摘心は、着果節の上位 15 節目で行った。
4. 苗は、セル形成苗を本葉 2 枚でほ場に直接定植する。
5. 収穫期は、着果から 45 日以上経過し、果梗部のコルク化が縦横に進んだ完熟期とする。

表 1 栽培期間 (2010 年、2011 年平均)

品 種	定植日 (月日)	収穫日 (月日)	成熟日数 (日)	在ほ日数 (日)
恋するマロン	8月27日	11月9日	46	74
くりゆたか	8月27日	11月17日	50	82

※ 栽植密度：畝間 5m、株間 30cm (667 株/10a)

※ 成熟日数は、交配日から収穫日までの日数。

表 2 果実の形状 (2011 年)

品 種	果高 (cm)	果径 (cm)	果径比	果肉厚 (cm)
恋するマロン	11.6	17.5	0.67	3.2
くりゆたか	13.3	18.4	0.72	2.9

※果径比は、果高÷果径による。値が 1 に近いほど球形を示す。

表 3 収量

品 種	2010 年			2011 年		
	平均果重 (%)	着果率 (%)	収量 (kg/10a)	平均果重 (%)	着果率 (%)	収量 (kg/10a)
恋するマロン	1619	100	1079	1839	100	1226
くりゆたか	1411	75	706	1833	87	1063

※着果率は、栽植株数に対する収穫果数の割合。

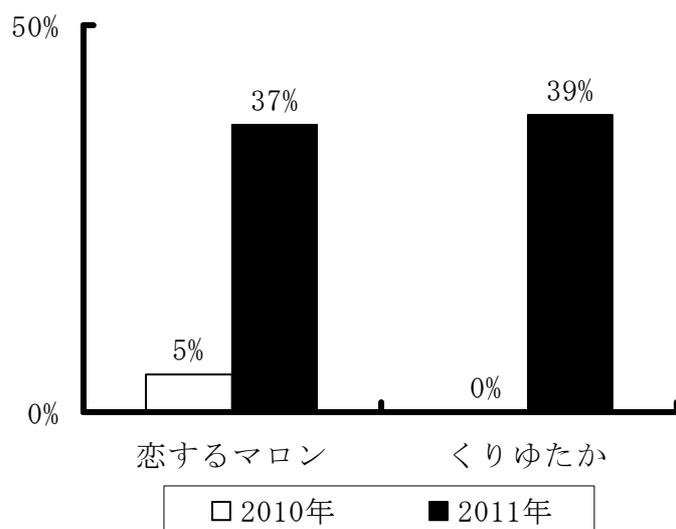


図 1 収穫果数に対する果重 2kg 以上の果実割合